

NOTICE サポセンからのお知らせ

● 市民活動を「体験する」時間  
ちょっと。ボランティア

日時: 10月3日(土)午前10時～12時

「地域や社会のために何かしたいけれど、何ができるかわからない」。そんな方々とサポセンがいっしょにボランティアに出かけます。今回は、ホームレス状態にある人たちの自立をサポートするNPO法人仙台夜まわりグループのお手伝いをします。

場所: 仙台市福祉プラザ9階 調理実習室  
内容: 食事提供支援活動の調理・配膳・会場設営などの準備  
定員: 10名  
参加費: 無料  
集合: 午前9時50分に仙台市福祉プラザ1階ロビー  
受付開始: 9月7日(月)から  
申込み・問い合わせ: 仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
Mail sendai@sapo-sen.jp  
メールでお申込の方は、件名を「体験する時間」として、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

● ～伝えずにはいられない～  
集まれ！手づくりメディア仕掛け人

日時: 9月12日(土)午後2時～午後4時

あなたのまちの、伝えずにはいられない魅力や地域課題はありませんか。編集者・藤本智士さんと対話しながら、自分たちの住まわちをちょっと違う視点で見つめ、伝える方法を考えます。

ゲスト: 有限会社りす 代表 藤本智士さん  
場所: 仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター  
内容: ゲストによる活動事例紹介と交流。同会場にて仙台、宮城各地で発行されている地域情報誌、フリーペーパーなどを展示。  
定員: 30名  
参加費: 無料  
対象: 地域活動やまちづくりに関心のある方。フリーペーパーや壁新聞などの情報発信に興味のある方。市民活動団体や、公共施設などで広報を担当している方など。  
申込み・問い合わせ: 仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
Mail sendai@sapo-sen.jp  
メールでお申込の方は、件名を「手づくりメディア」として、氏名・年代・住所・電話番号・参加動機をお知らせください。

● 活動力強化講座  
市民活動団体の理事・事務局長さんのための「実践！事業戦略と資金調達」講座

日時: 第1回 NPOの事業戦略  
9月26日(土)午後1時半～午後3時半

第2回 NPOの資金調達  
10月31日(土)午後1時半～午後3時半

※原則、連続参加。どちらか一方のみ参加希望の場合はご相談ください。

講師: NPOマーケティング研究所代表/NPOマーケティングで社会を変える！「草莽塾」代表 長浜洋二さん  
場所: 仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター  
内容: 「NPOのためのマーケティング講座」の著者で、NPOマーケティングの第一人者 長浜洋二さんの連続講座。持続可能な団体運営の方法を、ワークを通して学びましょう！それぞれの団体で抱

えている「課題」や「解決策」を見出すきっかけにしてください。  
定員: 30名(先着順)※団体運営に即反映できるよう、できるだけ1団体から2名以上の参加をお勧めします。  
対象: 団体のステップアップをお考えの方、団体の事業戦略について学びたい方、団体の資金調達が課題だとお考えの方、団体の理事・事務局長など。

参加費: 無料  
申込み・問い合わせ: 仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
Mail sendai@sapo-sen.jp  
メールでお申込の方は、件名を「事業戦略と資金調達講座」として、団体名・参加者名・電話番号・メールアドレス・団体の活動内容をお知らせください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- 市民活動の立ち上げ、法人格の取得、団体運営、組織運営などの相談
- 協働についての相談
- 復興支援活動、シニア活動・セカンドライフなどの相談

今月の休館日: 9月9日(水)・24日(木)

今月の表紙

ロングヘアーは、事故や病気で髪を失った人たちにウィッグを贈る「ヘアドネーション」に挑戦中だから。東北学院大学土樋キャンパスにて、友人との取り組みを話す豊田さんです。

●情報ボランティア@仙台  
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00 / 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

HP <http://www.sapo-sen.jp>  
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>  
Twitter @sensapo

「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとと読者アンケートにご協力をお願いします。サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2015年4月1日～2020年3月31日]

# ぱれっと

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2015 No.193

「ぱれっと」には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



今月のワクワクビト

映画を楽しみながら  
世界を知るきっかけを

アニバーサリーパーティー  
共同代表 豊田亜美 東北学院大学3年  
TSUGUMI TOYOTA

「映画を観て世界を考えませんか?」。豊田亜美さん(22)の呼び掛けはシンプルです。2014年夏から月1回、映画鑑賞会を続けています。国際社会への関心を喚起するため、国連が定める記念日にちなんで鑑賞作品を決めて集うから「アニバーサリーパーティー」。軽やかな団体名には、作品内容が重くても気軽に参加してほしいとの願いを込めました。  
初回鑑賞作品は、奴隷貿易をテーマにした英国の「アメイジング・グレイス」でした。8月23日が「奴隷貿易とその廃止の記念日」だったから。以後も難しいテーマの作品は多いですが、映画の親しみやすさを支えに、参加者と問題意識を共有しています。  
活動のきっかけは、ある留学生との出会いでした。母国の人権状況を嘆く姿に「日本の当たり前が世界では通じない」と目を見開かされました。毎回10人程度でスクリーンを囲む小さな集い。今すぐ大きな変化は望めなくても、一人ひとりに「気付き」が生まれる、記念日になっていることは確かです。  
取材・文: 高橋直道(東北大学2年)  
加藤里香(宮城学院女子大学2年)

アニバーサリーパーティー

連絡先 <https://www.facebook.com/TAPsendai>  
東北福祉大学4年の友人と一緒に、団体を切り盛りしています。国際交流イベントなどで顔を合わせているうちに意気投合。「映画で世界を考える」というアイディアは、共感する仲間を得て一つの形になりました。映画鑑賞会の会場は主に仙台市市民活動サポートセンターなどで、参加費は資料・茶菓代として毎回数百円程度です。次の映画は何にしよう。社会のこれからの思う若い2人のワクワクを、皆さんも共有してみませんか。

特集

地域住民がつくる、みんなの居場所

ほっとサロン将監





# 特集 地域住民がつくる、みんなの居場所 ほっとサロン将監

2025年には、全国で65歳以上の高齢者数が3,657万人となると予想されます。高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、公的サービスはもちろん、家族や地域住民、ボランティア、NPOによる制度外サービスの充実が必須です。福祉の課題を調査し、現状に添った活動を展開する「NPO福祉ねっと宮城」の取り組みを紹介します。



NPO福祉ねっと宮城

代表 なかむら しょうこ 事務局長 ふじた さわこ  
中村祥子さん 藤田佐和子さん



けやきグループ

代表 さいとう さちこ さとう りょうこ すがわら あつこ  
齊藤幸子さん 佐藤涼子さん 菅原敦子さん

## 足りない、支え合いの担い手

2015年の介護保険法の改正に伴い、要支援の高齢者向けサービスが自治体の事業に移行することが決まりました。仙台市は2017年からの実施を決め、サービス実施に向けた整備を進めています。この事業の担い手には市民ボランティアが期待されていますが、助け合いや生活支援などの制度外サービスに関しては、これまでも受け皿となる担い手不足やサービス不足が課題とされてきました。

2013年、仙台市内で福祉サービスを提供する11のNPOがネットワークを結び、NPO福祉ねっと宮城を結成。今後の地域福祉の在り方に危機感を持ち、市内で実施されている制度外サービスの実態調査やボランティア意識調査を行いました。その結果「支え合いのまちづくりを進めるためには、地域住民の参加と活動の場づくりが急務です」と、事務局長の藤田さんは分析します。「現場で培われたNPOの経験や意見を集約し、現状を伝え施策提案していきたい」と代表の中村さんは語ります。

2014年には、仙台市市民協働事業提案制度に応募し、行政や関係機関との連携会議を行うと共に、担い手育成のためにボランティア養成講座を開催しました。

## 住民参加型福祉拠点の運営

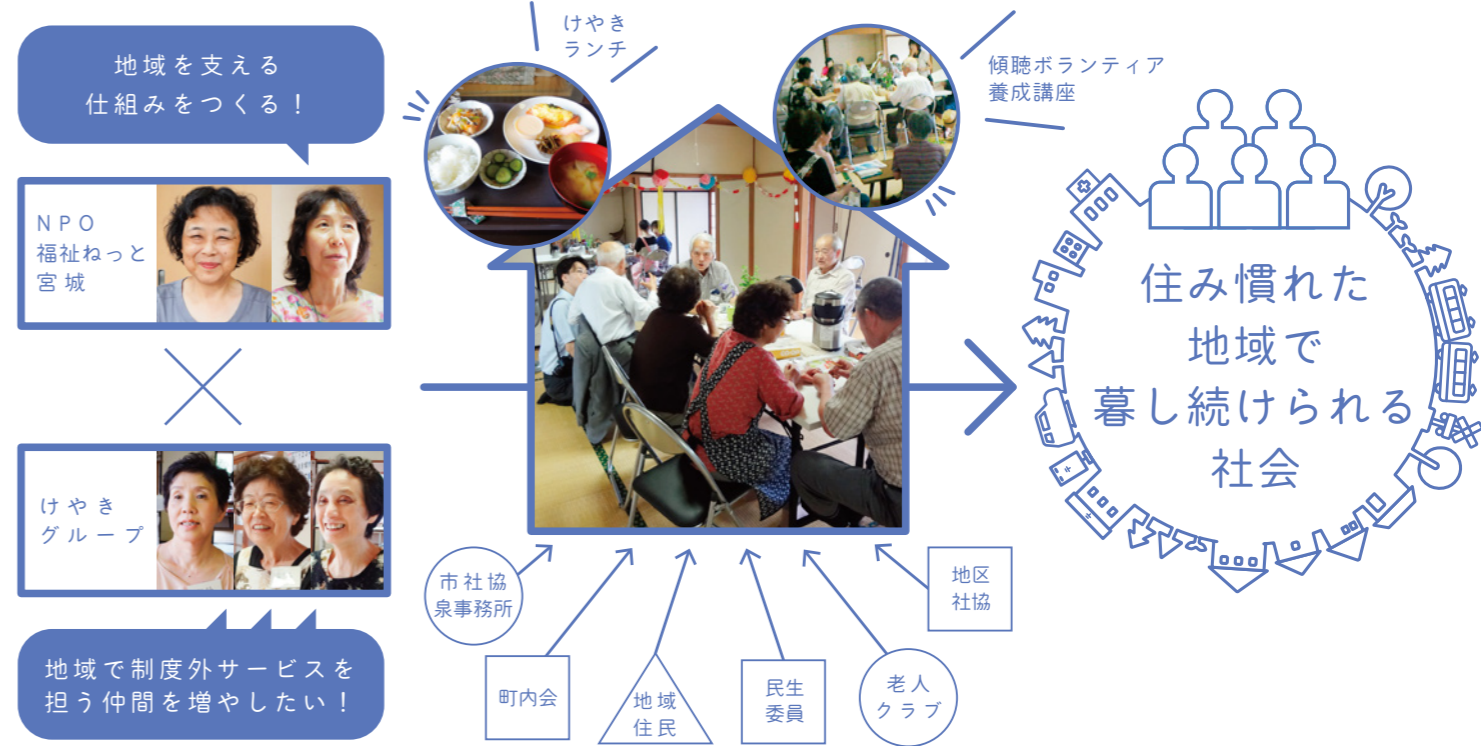
2015年7月からNPO福祉ねっと宮城は、けやきグループと共に仙台市泉区将監地区で「ほっとサロン将監」の運営をスタートしました。けやきグループは、1998年に同地区の主婦3人で活動が始まり、週4回、高齢で食事の支援を必要とする方々に、夕食のお弁当を届けるサービスを行っています。

サロンには地域で暮らす人たちが集まり、折り紙や会話を楽しみながら交流を深めています。お茶やお菓子のほか、けやきグループが作るランチの提供もあります。「サロンが認知されるにつれて、会場の準備や配膳を手伝うなど、少しずつ地域の方々に関わってくれることが嬉しい」と、けやきグループ代表齊藤さん。これまで培ってきた活動のノウハウが、サロン運営にも活かされていると実感しています。同時に「この活動をきっかけに、担い手不足が解消されることを期待しています」と話します。

## NPOのノウハウを地域に

サロンの役割は、地域住民の「居場所」だけに留まりません。NPO福祉ねっと宮城を構成する個々のNPOが、長年培ってきた

## 図解 地域の住民同士が支え合うまちづくり



■NPO福祉ねっと宮城 構成団体（2013年結成、2015年7月現在）  
NPO法人あかねグループ／NPO法人おひさまくらぶ／NPO法人グループゆう／NPO法人ナルク宮城「けやきの会」／NPO法人ゆうあんどあい／NPO法人あなたの街の三河やさん／NPO法人WACまごころサービスみやぎ／NPO法人FOR YOU にこにこの家／一般社団法人あおばサポート／地域生活支援オレンジねっと／賢和会 男の台所サロン／NPO法人仙台傾聴の会／L(エル)ネット（順不同）

NPO福祉ねっと宮城 TEL 070-5329-6780 FAX 022-277-1720 Mail lnet5piece@gmail.com / けやきグループ 〒981-3132 仙台市泉区将監 1-11-12 TEL&FAX 022-773-0749 / ほっとサロン将監 〒981-3132 仙台市泉区将監 8-1-10 老人憩の家

■市民協働事業提案制度を活用しています！  
平成24年度から実施され、地域の身近な課題について市民による提案をもとに、仙台市と一緒に解決していく制度です。自分たちだけで取り組むのではなく、制度を利用することで、多様な人材や多角的な視野を得て課題解決に取り組むことができます。

専門的なノウハウを基に、団体立ち上げ支援を行ったり、傾聴講座や認知症ケア講座などを開催しています。サロンを地域住民のボランティア活動の場として活用し、住民がお互いに支え合うための土台づくりを進めています。

(取材・文 佐藤健太郎)

**こし1つク ボランティアとNPOって違うの？**

どちらも営利を目的とせず、自主的、自発的に社会の課題解決に向けた活動を行うという点では同じですが、NPOは「組織(団体)」を、ボランティアは「個人」を指す言葉です。「NPOなのに金を稼いでいるのはおかしい」という言葉を聞くことがありますが、誤解です。NPOの非営利性は、団体として活動経費などは稼ぐけれど、利益は内部で分配せず、さらなる活動に使うことを意味しています。詳しくはサポセンホームページ「市民活動お役立ち情報」をご覧ください。

お役立ち本 『がんばれ美術館ボランティア』 嶋崎吉信、清水直子・編著／淡交社・発行

バブル崩壊後、財政難を迎えた公立美術館。新たな事業の方向性を「教育普及」という領域に見出し、ボランティア制度を導入します。美術館と社会の橋渡しという役割を担ったボランティアは、専従スタッフでは思いつかないユニークな活動を行います。美術館ボランティアの活躍を例に、市民も公共の担い手として活躍する社会には、どんな可能性があるのかを考える一冊です。



コトハシマ 9月12日開催 ～伝えずにはいられない～ 集まれ！手づくりメディア仕掛け人

自分たちが住むまちを知ろうとしたり、誰かに伝えようとしたとき、当たり前と思っているものが実はとても価値のあるものだ気づいたり、地域の人たちの困りごとを見つけたり…。いろいろな発見があります。サポセンでは、日本全国を旅しながら、地域を独自の視点で発信し続ける編集者・藤本智士さんをお招きし、トークイベントを開催します。地域で自分の力を発揮するヒントが見つかるかもしれません。



インフォメーション 「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」が施行されました

仙台市では、平成11年に「仙台市市民公益活動の促進に関する条例」の制定や市民活動サポートセンターの設置を行い、市民活動の促進・支援に取り組んできました。それから16年が経過し、人口減少・少子高齢化など社会環境が変化の中で、さらなる協働の推進という次のステージを目指して、これまでの条例を「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」へと改正し、平成27年7月より施行しています。

新条例では、市民、市民活動団体、町内会、企業、大学など多様な主体の協働によるまちづくりを推進していくため、協働の基本理念や施策等を定めています。これからも持続可能なまちとして成長を続けていくために、条例や今後策定予定の基本方針のもとに、より創造的な視点に立った新たな価値を生み出す「協働」の取組を推進していきます。

お問い合わせ先 仙台市市民局市民協働推進課 TEL 022-214-8002 Mail sim004100@city.sendai.jp HP http://www.city.sendai.jp/manabu/shimin/keikaku/1218706\_1765.html